

特別展示 平 清盛 —院政と京の変革—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、平成23年秋の後期特別展示として、「平清盛—院政と京の変革—」を開催します。

平安時代後期は、日本の歴史における古代から中世への変換期にあたります。政権の所在地であつた京都では、院政を行なった4人の上皇（白河・鳥羽・後白河・後鳥羽）に権力が集中し、大規模な寺院や殿舎が造営されるとともに経済・流通にも大きな発展が見られました。平清盛は、保元の乱・平治の乱を通じて頭角をあらわし、やがて後白河上皇と対抗するまでの政治力を握るとともに、日宋貿易を推進します。

『平家物語』をはじめとする文学作品には、この頃の平安京の情景や人々の姿が活写されていますが、遺跡の調査成果からも大きな時代の画期であったことが明らかになっています。

今回の展示では、京都における平清盛や平氏一門に関する遺跡・遺物を紹介するとともに、白河から後鳥羽院政期（11世紀後半～13世紀前半）の平安京・京都に起きた変革を、「平清盛と平氏の足跡」、「流通の発達」、「大規模な寺院・殿舎の造営」、「院政期の生活と祈り」の4つのコーナーに分けて、考古資料をもとに解説します。

（山本雅和）



西八条第6 土器出土状況



平賴寺御跡

京都駅周辺の調査で頼貞の泉跡や建物の雨落構造が見つかりました。泉の湧出には陶器の大甕が嵌っていました。また、日本宋貿易によりもたらされた中国製陶器も多数出土しています。



法勝寺八角九重塔復元 CG

法勝寺は院政期を代表する巨大寺院です。高さ81mに復元される八角九重塔は、白河上皇の権力を象徴するモニュメントでした。

富島義幸：復元考証、設計方針検討
竹川浩平：設計図面・CG作成



法勝寺八角九重塔地盤

八角九重塔を支えるため、基礎外側の広い範囲にまで地業（基礎工事）が行なわれました。人の頭ほど大きな石を含む粘土層を積み上げています。



法住寺殿連華王院

蓮華王院は平清盛が後白河上皇のために建立しました。三十三堂の西では3棟の建物跡が見つかりました。瓦がほとんど出土せず、繪皮葺きの寝殿と考えています。



鳥羽殿宮東殿の瓦池

東殿には広大な瓦池が広がっていました。瓦の打は緩やかで、表面には玉石が散っていました。後方に見える多宝塔は、近衛天皇陵です。



白河天皇陵

鳥羽殿の一角に營まれた白河天皇陵は、現在より規模が大きく、一辺66m・幅6mの壇に囲まれていたことが発掘調査によってわかりました。



鳥羽殿宮剛心院跡出土瓦

上皇や天皇が建立した大規模な寺院の屋根には、各地で生産された瓦が葺かれていました。写真の軒瓦は播磨國（現在の兵庫県）のものです。



鳥羽殿宮剛心院跡出土瓦

大規模な寺院や殿舎の造営にあたっては、軟弱な地盤を改良するための入念な基礎工事が行なわれました。石や粘土を敷き詰め、突き固めています。



さまざまな銅金具 法住寺殿連華王院出土（左）、鳥羽殿宮剛心院出土（右）

最勝光院は後白河上皇の寵姫・平道子（建春門院）が発願して建立された寺院です。また、金剛心院は鳥羽殿の中でも最も発掘調査が進んでいる寺院です。仏堂を飾った金銅製の飾金具をはじめとして、さまざまな遺物が出土しました。青色に輝くのはガラス玉。



調査位置図

1 西八条第6 2 平賴寺御跡 3 法勝寺八角九重塔 4 道華王院 5 最勝光院 6 鳥羽殿宮東殿 7 白河天皇陵 8 金剛心院